

人と魚と海のネットワーク
香川県漁連ホームページ
http://www.jf-net.ne.jp/kagyoren/
E-mail:gyoren@kagawa-
gyoren.or.jp



JF 高松市北浜町 8 - 25
TEL 087-825-0350
J F 香川漁連 FAX 087-851-0699

謹賀新年

香川県漁業協同組合連合会

代表理事会長 服部 郁弘



年頭に当たり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中は、本会業務運営につきまして、格別のご協力を賜りありがとうございました。

さて、わが国の経済は回復基調にあるといわれていますが、われわれ水産業界は、資源の減少、輸入水産物の増大、就業者の減少や高齢化・後継者不足等により、その景気拡大を実感するには程遠い状況にあります。

また、本県の漁業は、魚価の低迷・販売不振、ノリ養殖における色落ちの問題、更には近年頻発する高潮被害等の自然災害により厳しい状況が続いています。

とりわけ、最近の燃油価格の異常な高騰により漁家の経営は更に苦しく、昨年12月に燃油高騰対策を求める漁業代表者集会在東京で開催され、国・県に対し緊急対策を要望いたしました。

県漁連といたしましては、本県水産業が抱える諸問題を克服し、将来に向けて安定的に発展させていくために、養殖業の積極的展開と、栽培漁業と資源管理型漁業の有機的な連携、新たな流通システムの構築等により、つくり育てて売る漁業や安全・安心な水産物を消費者に提供する地産地消運動および子供たちに水産物のおいしさと栄養を学んでもらう食育を推進し、地域に根ざした活力ある香川型漁業を確立することが急務であると考えております。また、漁業生産の源である豊かな海的环境保全について、県民あげての運動として取り組むとともに、海難事故の防止や漁業と海洋性レクリエーションとの共存

をめざす海面利用の適正化に取り組む必要があります。漁業基盤の強化を推進し、担い手の確保や都市住民との交流などに取り組み、うるおいとにぎわいのある漁業地域づくりを進めていくことも今後の重要な課題です。

本年3月には、東かがわ市引田の安戸池において日本で初めてハマチ養殖に成功した野網和三郎氏の生誕100年、ハマチ養殖80周年の記念式典が東かがわ市のベッセルおおちで開催され、同時に安戸池においては産直市などが計画されています。また、平成20年度は県魚「ハマチ」の消費拡大キャンペーンを全国で実施し、消費者の皆様にはハマチのおいしさを知っていただく所存であります。

本年も、厳しい経営環境が予想されるなか、会員・所属員の経済的、社会的地位の一層の向上を目指して諸事業に取り組んで参る所存でありますので、会員各位をはじめ関係者諸賢におかれましては、なお一層のご協力をお願い申し上げる次第であります。

最後に、皆様方の限りないご繁栄とご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶と致します。



香川県かん水養殖漁業協同組合

代表理事組合長 嶋野 勝路



新年明けましておめでとうございます。年頭にあたり謹んでご挨拶を申し上げます。

格差社会と云われ、都市と地方の格差は益々拡大の様相を呈し、地方の閉塞感は拭いきれないでいます。

とりわけ、一次産業の水産業において、漁船漁業、養殖漁業にかかわらず依然として厳しい環境から脱却できずに経営難に直面しております。

顧みますと、昨年のかん水養殖業は、燃油の高騰もさることながら、餌飼料の高騰から生産コストがはね上がり、魚価に転嫁されずカンパチは生産原価を割らない価格形成ができたものの、ハマチ、マダイについては出荷当初から生産原価を割り、経営収支を大きく圧迫して困窮の度合は深まるばかりで漁期当初から懸念していたことが現実となり、漁家経営は存亡の危機に瀕しております。このような事態に鑑み、昨年12月の県当局への予算要望では、緊急融資制度の創設を強く要望して参った次第であります。

今日の流通市場では、量販店主導の低価格志向、効率主義が生産者段階まで影響を及ぼし、量販店側が提示する仕入価格が仕入先である消費地卸売市場、更に産地市場をも左右し、本来生産量の多寡で価格が変動していた産地市場の自立性は大幅に後退したと指摘されているように、浜値が高騰すればスーパーの商材から外れ、結果的に反動が起きて消費が鈍り価格の低迷を余儀なくされております。

今後は、身の丈に合った放養尾数の計画生産が重要であり、本県のみならず全国規模で更なる生産調整を断行しなければ、生産原価に見合った安定価格は実現しません。

期せずして、本年3月1日には第33回全国海水養殖シンポジウムがサンポート高松で開催され、翌2日には野網和三郎生誕100年・ハマチ養殖80周年記念式典が挙行されるにあたり、ハマチ養殖発祥の香川の地から、全国の養殖業者に声を大にして呼びかけ、生産原価の確保、計画生産の断行を遵守してメインテーマである「かがやく海 未来に残そう養殖業」を实践しようではありませんか。

最後に、自由主義経済の生き残りを賭けた時代の中で、郷土の偉なる先人、野網和三郎氏の開拓精神の志を受け継ぎ、組合員皆様の更なる奮起を期待するとともに、役職員一同、心新たに精一杯頑張る参る所存でありますので、なお一層のご理解、ご協力をお願い申し上げ年頭のご挨拶と致します。

香川県海苔養殖研究会

会長 森 朝征



新年明けましておめでとうございます。年頭にあたり謹んでご挨拶を申し上げます。

振り返って見ますと昨海苔年度は漁期当初より高水温により、本張りが遅れ、芽流れ等の発生もあり生産数量がまとまらず、年明け後は海況も安定し全体的に順調に生産が行われました。しかしながら2月頃より入札価格が低迷、燃油の高騰等により、本県ノリ養殖業者にとって多大な影響を受け、課題を残した年でありました。

こう言った状況の中、行政、系統団体、生産者が一体となり、ノリ養殖を取り巻く諸問題を解決すべき活動を展開しました。流通過程の変化、加えて全国的な需給バランスの崩れに伴う価格低迷に対して、商社へのアピール活動をすべき商社訪問等の強化を行なってまいりました。数年来の懸案事項でありました色落ち対策として施肥試験の改良を重ね、一方では漁家安定を目的に経営診断を進めているところです。

「食の安心・安全」な製品作りの観点から、加工場内での作業帽の着用を義務付け、より一層消費者に信頼されるノリ作りを目指したいと考えております。

県内に於いては、地産地消を目的とし、県産ノリの普及PR活動(学校給食)を通じ更に推進致します。

本年海苔漁期は当初より水温が高く、育苗、本張りに随分ご苦労された事と存じます。生産時期に入っても少雨による栄養塩不足は一向に回復せず、色落ちの進行、又、スミノリの発生等に加えて、昨年に引続いて価格が低迷しておりますが、19年度漁期の海況の回復と海苔関係各位のご多幸をご祈念申し上げますと共に、皆様のお一層のご指導ご協力をお願い申し上げます。

香川県無線漁業協同組合

代表理事会長 服部 郁弘

新年明けましておめでとうございます。平成20年の年頭に当たり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中は、当組合の運営につきまして、多大なるご協力とご支援を賜りましたことを心から感謝申し上げます。本年も、漁業無線の維持発展のために、より一層の深いご理解とご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

さて、操業中の不慮の事故は後を絶たず、気象海況の急激な変化により身の危険を感じられたこともあるかと存じます。漁船の衝突事故等は、昨年においても多発しております。本年4月1日からは、航行中の小型漁船1人乗船時に救命胴衣無条件着用が義務化されます。改めて、漁業者が自身の身を守るために救命胴衣を着用されますとともに、緊急時における最も確実な通信手段として、漁業無線を十分に活用されますことを願う次第です。

また、超短波漁業無線を積載している漁船の乗組員が海中に転落した際、携帯する小型発信器から自動的に救急信号と位置データを海岸局へ発信し、自船も自動的に停止する「小型漁船緊急通報システム」については、本県においても、更に検討していきたいと考えております。

海上で操業する漁船と陸上との通信基盤としての漁業無線は、操業の安全と効率化による生産性の向上及び貴重な人命の確保という重要な役割を担っていると認識し、当組合としては本県の重要な基幹漁業である漁船漁業の発展のため、今後も地道な努力を続ける所存でございます。つきましては、組合員各位におかれましては、本年も格段のご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

終わりに、組合員並びに系統関係者の皆様方のご繁栄とご健勝を祈念申し上げ、新年のご挨拶と致します。



社団法人 香川県水産振興協会

会長 服部 郁弘

新年あけましておめでとうございます。

平成20年の年頭に当たり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年中は、本協会の業務推進につきましては、会員並びに関係者皆様には格別のご支援・ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

平成19年度の広報宣伝事業や漁場環境保全事業の一部新規事業において、会員等への一部補助の実施で、魚食普及活動や漁場環境保全を図ることができました。また、関係機関の協力を得て実施中のヒラメの放流効果実証事業はまもなく取りまとめを終え、科学的に報告ができるものと思われ、今後の放流事業に反映させたいと考えております。

その他流通・消費対策事業では、各地での「水産食育教室」を開催し食育の理解を図り、また引き続き県内外でのフェア、懇談会の開催等や県産ハマチの学校給食普及事業を実施し、地産地消や県内水産物の消費拡大を推進する事ができました。

平成20年度も、引き続き本協会の中核事業である大型種苗放流事業を始め、操業安全対策事業や漁場環境保全対策事業など各事業の一層の充実に努めて参りたいと思います。また、新たに平成20年12月1日から新公益法人制度が施行されることから、新制度に適合する諸体制整備を図り、公益認定申請すべく移行準備を進めて参りたいと考えております。

つきましては、本年度も県内水産業の振興に寄与する所存ですので、格別のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、平成20年度が皆様方にとって良い年となりますよう祈願し、併せて会員並びに関係者の皆様方のご活躍とご健勝をご祈念申し上げ新年のご挨拶と致します。

全国漁業協同組合連合会

代表理事会長 服部 郁弘

新年明けましておめでとうございます。

年頭にあたり、全国津々浦々でご活躍中の組合員の皆様並びにJFグループの皆様にご挨拶を申し上げます。

昨今の漁業経営は漁業者の自助努力を超えた様々な要因により、甚大な影響を受けており、JFグループの経営も益々の困難を余儀なくされております。このような時こそ、歴史と伝統により培われたJFグループの力を結集し、総力を挙げて難局を乗り越えていかなければならない、と決意を新たにするとところです。

特に、燃油高騰による漁業経営危機は一層深刻化しております。そのため昨年12月13日にはJFグループによる「漁業経営危機突破！全国漁業代表者集会」を開き、漁業生産の継続と経営を維持するための緊急対策を政府に強く求め、大型の基金設置が方向づけられたところです。

また、経営不振JF対策については、赤字が累積している経営不振JFをこのまま放置すれば、組合員ばかりでなく、優良JF、地域社会にも大きな影響を及ぼしかねない、との観点から引き続き取り組んでまいります。

さらに、漁業生産の担い手となる経営体の育成・確保のため、収入の減少による経営への影響を緩和するセーフティネットとしてJFグループが長年にわたって要求してきた新たな漁業経営安定対策事業が2008年度予算の概算要求で認められ実現の運びとなりました。今後はこの制度の更なる充実を図り、所得の安定的な確保により漁業者が安心して漁業を営むことができるよう、全力で取り組む所存であります。

漁村全体の活性化方策としては、中期的視点での主な課題と展望を明らかにするとともに、対応の方向と政策支援のあり方について「経費を吸収しうる価格形成の実現」「生産の中心となる担い手の育成・確保と多様な担い手による漁業・漁村の活性化」などの提言を行うこととしております。

加えて、様々な変化する経済・社会情勢の中でそれぞれの施策を実現していくためには、浜の声と力を結集し、JFグループをあげて水産政治力の強化を図ることが不可欠であることから、昨年の参議院議員選挙においてオール水産で得た10万票を超えるご支援を重く受け止め、今後、大きな力として活用していきたいと存じます。

JF全漁連と致しましては、JFグループの皆様をはじめ社会からも信頼される組織となるよう役職員一丸となって、なお一層の努力を重ねてまいります。

この1年が、皆様方にとり良い年でありますよう祈念し、操業の安全と一層のご繁栄・ご健勝をお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。

乾ノリ初入札！

平成19年度県内産養殖ノリ(乾海苔)の初入札会が、12月15日(土)高松市瀬戸内町の本会共販所において、25商社60名の参加を得て開催された。県下17漁協から出品があり共販枚数2,102万枚、平均単価6.61円であった。少雨による栄養塩不足、天候不順等の影響を受け全体的に初回摘みには穴、クモリ系統の出品比率が高く、地色の有るものが少なく、焼き色が出ないものは敬遠された。

なお、第2回共販は12月25日(火)に開催され、共販枚数4,413万枚、平均単価5.63円であった。

これから最盛期に入るが、例年に比べ栄養塩が少ない状況が続いている。



初入札の風景

主な行事予定(1/1~1/31)

- 1月4日(金) 仕事始め
- 5日(土) 新年初市祈願祭(中央卸売市場)
- 10日(木) 第3回乾のり入札
- 19日(土) 第4回乾のり入札
- 27日(日) 第5回乾のり入札
- 29日(火) 税務説明会